

明治20年代に建てられた伊勢崎市境の古民家を活用し、障害者の就労機会とする「中沢カフェ」が、13日オープンした。特製チーズケーキやコーヒーを手ごろな値段で

提供するほか、隣接してアンテナショップを開き、障害者らが作った野菜や手芸品を販売する。地域の高齢者らが集うコミュニティの場にしたい考えだ。

伊勢崎・境の古民家活用

就労の場提供、手芸品販売

カフェで障害者支援



古民家(木造2階建て)に住んでいた中沢郷子さんが2013年に亡くなり、遺族から

同市大正寺町の社会福祉法人「キャッチャーパン」(森田修理理事長)に土地建物が寄付されに当たる。



古民家を活用し、旧日光例幣使道(国道354号)沿いにオープンした中沢カフェ(左)、古民家ならではの雰囲気を楽しめる店内

中沢家は江戸時代に造り酒屋を営んでいたが、その後薬屋となり、この建物では薬を販売していた。

障害者は、カフェで接客や調理補助、店内の掃除といった仕事をやる。アンテナショップではクッキーやピーズの手芸品を販売し、工賃アップにつなげる。敷地内には蔵もあり、演奏会や作品展の会場としても利用する。広い庭園はバラや庭木が植えられており、一般開放する。

地元の人たちも今後、カフェを応援する後援会を立ち上げ、店の運営や庭の手入れを手伝う。会の代表に就く予定の高橋友七さん(83)は「これまで地域の人が集まれる場所があまりなかった。まちを元気にする拠点にしていきたい」と話し、全面的に協力していく

考えた。

森田理事長は「地域の人と仲良くし、交流の場にしていきたい」と話している。

問い合わせは中沢カフェ(80270・74・0668)へ。